

# 農家の環境を美化する花の種類

＝花を使って心のゆとりを＝

雪印種苗(株) 中央研究農場

## 不破規智



明るさを演出するハナビシソウ

明るい話題の少ないこのごろですが、日本では近年、花壇用の花の需要が伸びています。

この背景として、1990年の大阪花博から家庭園芸への関心が高まっていることと、不景気の影響で、費用のかさむレジャーを避けて家庭で園芸を楽しむ人が増えたことがあるといわれます。

さて、空前の園芸ブームといわれる今の日本ですが、都会でマイホームを手に入れた人は小さな庭でささやかな家庭園芸を楽しんでいます。また、都会生活者の大部分はアパートやマンション暮らしで、鉢植えの土さえも園芸店で買わなければ手に入りません。

土地がふんだんにあり、家の大きい農家の環境は都会に暮らす人たちがうらやむ絶好の園芸環境といえます。農家の庭先では、たびたび素晴らしい植木や花を見かけますが、最近、流行の草花や鉢物を使って、もっと華やかな演出を試みてはいかがでしょうか。

### 1 家の中を明るく演出する……鉢もの

#### 1) シクラメン

日本の代表的な鉢花といえばシクラメンです(写真1)。以前はとても高価なものでしたが、最近は求めやすくなり、花色もカラフルになりました。色を変えて数鉢まとめて飾ると、冬の室内も華やぎます。鉢土が乾ききらないよう気をつけ、水やりは中心の球根部分にかからぬようにします。枯れ葉や花がらをこまめに取り除くのが長持ちさせるコツです。15℃前後の明るい窓辺で管理すると次々に花が咲くでしょう。

冬の間、咲き続けたシクラメンは、これから暑くなるにつれて元気がなくなります。次の冬に再



写真1 花弁がフリル状のシクラメン

び咲かせるには、以下の二つの方法がありますので試してみましょう。

- ①夏も涼しく、30℃以上にならない地域では、直射日光を避けた明るい場所で普通に管理を続けます。暖かくなったら一回り大きい鉢に植え替え、定期的に液肥を与えるなどして秋までに株を太らせます。
- ②夏が暑く、連日30℃を超えるような地域では、休眠状態で夏越しをします。暑くなる前に徐々に水やりを控えて葉を枯らし、涼しくて暗い場所で秋まで保存します。秋になって涼しくなったら球根を掘り上げ、新しい培土に植え付けます。この時、球根の上部が培土の外に出るようにしましょう。

#### 選び方

- ・葉の数が多く、大きさの揃ったもの。
- ・葉が固く、締まった感じのするもの。

#### 2) 洋ラン

洋ランは高価なものですが、花が長持ちするので上手に管理すると3か月以上も楽しむことがで



きます(写真2, 3)。特にコチョウランは咲き終わっても3~5節残して花茎を切り戻すと3~4か月で二度目の花を咲かせることが多く、二倍楽しめます。シンビジウムは10~15℃の明るい窓辺、コチョウランは15~20℃の半日陰が適しており、暖房の温風や熱気が当たらないように気を付けましょう。冬期間は水を控え、暖かくなったらたっぷりやりますが、鉢皿に水をためることはしないでください。

#### 選び方

- ・七~八分咲きで、つぼみの多すぎないもの(つ



写真2 コチョウラン



写真3 シンビジウム

ぼみは敏感なので、移動すると咲かない場合があります)。

- ・つぼみが黄色く変色していないもの。
- ・葉が多く、垂れていないもの。
- ・ハダニやカイガラムシのついていないもの。

### 3) プリムラ類=西洋サクラソウ

プリムラには多くの種類がありますが、園芸店などでよく見かけるのはジュリアン、ポリアンサ、オブコニカ、マラコイデスの4種類です(写真4~7)。

ジュリアンとポリアンサは特に低温性で、多くの品種は庭植えて早春の花を毎年楽しむことができます。鉢花として室内で楽しむ場合は、できるだけ涼しくて日当たりのよい場所に置くと次々に開花します。

オブコニカはボリュームがあり、室内で長期間楽しめる花ですが、葉や茎の細かな毛から分泌される物質が原因となって人によってはかぶれる場合があります。オブコニカの移動や水やりの時には、ゴム手袋をつけるか、葉や茎にあまり触れない



写真4 プリムラ・ジュリアン



写真5 プリムラ・ポリアンサ





写真6 プリムラ・オブコニカ



写真7 プリムラ・マラコイデス

いように注意しましょう。

マラコイデスは可憐な雰囲気の花で、和室にもよく合います。涼しくて明るい場所に置き、花が終わった茎を早めに切ると次々に新しい花茎が伸びてきます。

一部の耐寒性の品種は秋播きして早春の花壇で花を楽しむことができます（温暖地）。

#### 選び方

##### ・ジュリアンとポリアンサ

花や葉の付け根を見て、カビや腐敗のない健康な株を選びます。

##### ・オブコニカとマラコイデス

鉢を少し傾けて、株のぐらつかないものを選びます。また、花茎のたくさん見える株を選ぶと次々に開花して長期間楽しめます。

#### 4) カーネーション

母の日に贈られる鉢物カーネーションはお母さんにとって格別のものでしょう。母の日のカーネーションは従来赤と決まっていたのですが、近ごろはそのほかにもさまざまな色の品種が出てきました（写真8, 9）。

しかし、カーネーションでは蕾がたくさんついているのに咲かないことがあります。このような時はできるだけ日当たりのよい場所に移したり、肥料をやったり、咲かない蕾と枝を摘み取って新しい蕾の生長を助けてやるとよいでしょう。

また、一回り大きな鉢に植え替えるのが最も効果的な方法です。



写真8 鉢物カーネーション新品種・カリフォルニアファイアフライ

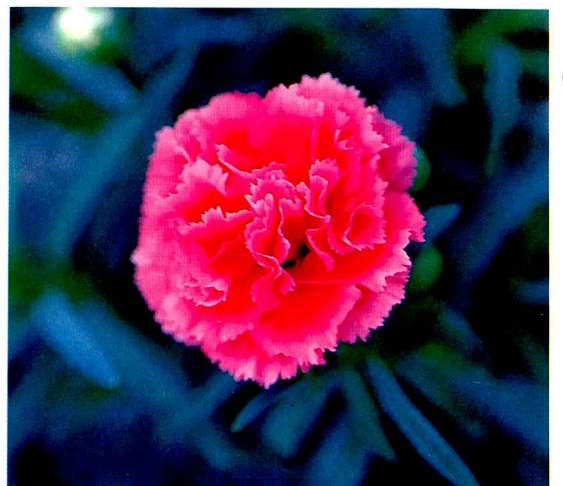


写真9 鉢物カーネーション新品種・カリフォルニアシュガーブルム

## 2 自慢の花畑をつくる……花壇

花壇用の花の種類は驚くほど多くなりました。ここでは、代表的なものを紹介しますが、この他にもさまざまなものがあります。季節ごとに園芸店を訪れ、好みの花を見つけて、わが家自慢の花壇やプランターを作ってみてはいかがでしょうか。花の色の組み合わせばかりでなく、高いものと低いものを上手に組み合わせるのが成功のポイントです。大部分の花は15~20cmの間隔で植えると、その後、生長してちょうどよい間隔になります。また、花付きポット苗の小売り価格は100~200円程度です。

### 1) パンジー

早春の代表的な花です。従来は春のみの花でしたが、近ごろ温暖地では秋に植え付けて秋~冬に咲かせる使い方も普及してきました。多くの花色がありますので、好みの色を自分のデザインで植え付けるとよいでしょう(写真10)。

パンジーを小型にした感じの花がビオラで、地面を覆うように広がり、小さな花を多数咲かせます。ビオラは一般にパンジーより強健で、より長く楽しめます。これらパンジーの間は暑くなると背が伸びて倒れ、花が咲かなくなるので、マリーゴールドやサルビアなどを植え替えます。

#### 選び方

- 好みの色を選ぶことが大切ですが、黄色と明るいブルーを主役にするるとよいでしょう。株がよく締まっていて花首が短く、株の上に花が乗っているような背の低いものが丈夫です。



写真10 パンジー

### 2) マリーゴールド

夏を代表する花ですが、春や秋も十分に鑑賞できます。とても強い性質の花で、特に暑さに強いため、他の花が精彩を欠く暑い時期も鮮やかに咲き続けます。従来は黄色の花がほとんどでしたが、近年はオレンジ色や赤褐色、覆輪など非常にカラフルになりました。また、品種によって高さがいろいろあり、高低差をつけて立体的な花壇を演出することができます。

#### 選び方

- 茎が太く、また、株のぐらつかないしっかりしたものを選びます。

### 3) ベゴニア

一般に花壇で利用されるベゴニアは正しくはベゴニアセンパフローレンスと呼ばれますが、ここでは簡単にベゴニアと呼びます(写真11)。ベゴニアは葉色で大きく分けて緑葉(鮮緑色の葉)系と銅葉(赤褐色の葉)系があり、それぞれに赤、ピンク、白の花があります。花色だけでなく葉色も考えて色を組み合わせ、初夏から秋の花壇の主役にするるとよいでしょう。ベゴニアも暑さに強く、また、葉も美しいため長く楽しめる花です。また、伸びすぎて株の姿が乱れたときは刈り込んでやると新しい枝を伸ばして再び開花を始めます。

#### 選び方

- 品種により高さが違いますから、違う品種(花色・葉色)を横に並べて植える場合は、高さが揃うように選びましょう。株元をよく観察し、ベタついて腐敗している部分がないものを選びます。

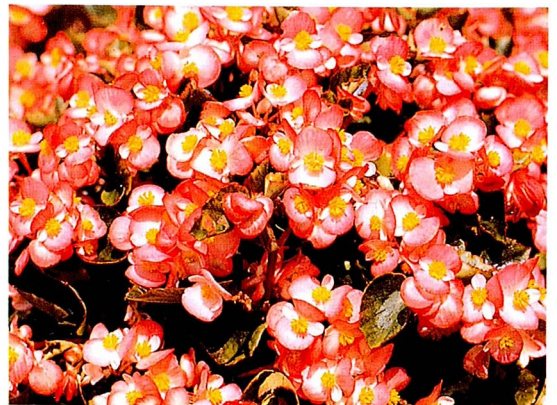


写真11 ベゴニア



### 3 広い場所を演出する……ワイルド フラワー

路端や空き地など、比較的手軽に花いっぱい  
できるのがワイルドフラワーです(写真12~15)。

季節ごとに交代して花が咲くよう、また、きれ  
いな配色となるよう、いろいろな種類の花の種を

ミックスしたり、1種類で統一したりで使います。  
遠くから見てほしいへんきれいで、明るい雰囲気  
になります。

スノーミックスフラワーが手軽で便利です。北  
海道向け及び府県向けセットや栽培のポイントは  
本誌裏表紙を参照下さい。



写真12 ワイルドフラワー・春の風景



写真14 さわやかなブルーのネモフィラ



写真13 ワイルドフラワー・夏の風景



写真15 遠くからよく目立つクリームソングローバ

## 雪印推奨図書案内

- ◎イネ科・マメ科牧草の主要病害を写真入りで解説!  
原色 「牧草の病害」  
A 5判 200頁 西原 夏樹著 頒価 3,000円
- ◎アルファルファの品種・栽培・病虫害・収穫調製などを網羅!  
新刊 「アルファルファ(ルーサン)」—その品種・栽培・利用—  
A 5判 250頁 鈴木 信治著 頒価 3,000円
- ◎酪農家のバイブル、サイレージ調製には、これ一冊でOK!  
微生物のパフォーマンスとその制御 「サイレージバイブル」  
A 5判 124頁 監修 高野 信雄 安宅 一夫 頒価 1,000円
- ◎植物ホルモンに関しては、これ一冊でOK!  
作物の収量・品質向上への期待 「サイトカイニンバイブル」  
A 5判 125頁 編著 葭田 隆治 頒価 2,000円

★いずれも送料、消費税込み価格。お申込みは最寄の弊社営業所へ